

## 積丹半島地域の地勢的特徴に基づく 旅行目的の季節的変化

Seasonal Change of Travel Purpose Based on Geographical Features of  
the Peninsula area of Shakotan.

山下成治・森 雅人・富樫慧凜央  
YAMASHITA Nariharu・MORI Masato・TOGASHI Erio

The analysis of individual travel around the Peninsula area of Shakotan was conducted in early summer and late autumn of 2018, four times. The number of responses in the field survey was 698 in early summer and 361 in late autumn.

The purpose of the trip is in order of "food" "hot spring" "industrial tourism and cultural facilities" "outdoor leisure" "general tourism and drive" "foot path walk" "climbing". The questionnaire revealed that passenger objectives in this area are moving for another purpose based on common "food".

Many people stroll through the Peninsula or drive other areas regardless of season or location. The combination of "foot path walk" and "hot springs" to always keep these passengers within the peninsula, and "foods" that are always in demand seems to be an effective regional policy in the future.

For travelers and general drivers, it is necessary to provide "new fun" using "food" that is easy to understand locally, and distribute this information in a timely manner.

### はじめに

平成 29 年度 6 月に公表された『平成 28 年度後志総合振興局管内観光入込客数の概要』<sup>(1)</sup>によれば、当年の荒天や地震災害による影響を受けて、前年度比較で約 41 万人減の観光入込客数となった。しかしながらこの 5 年間の来訪者数は右肩上がりで増加しており、2,260 万人の入境者が認められている。

9 割を日帰り客が占めるものの、H24 時点より平均宿泊数が+0.18 日増加して現在 1.46 泊となっており、この傾向は当分継続すると考えられている。季節的な来訪者数は、夏季休業を含む 7 月と 8 月が平均 300

万人台で最大となり、冬場は180万人が訪れており、道内客が全体の約7割を占める都市交流型地域である。

後志総合振興局管内<sup>(2)</sup>(以下、特に断らない限り「後志」と略す)への入境先は、約790万人の小樽市が群を抜いて一位である。次いで、羊蹄山-ニセコ連峰地帯の喜茂別町・ニセコ町・倶知安町・留寿都村が150万人強で続き、研究対象とした積丹半島地域では交通結節点となる余市町・積丹町・赤井川村が110~130万人弱程度を占めている。他の町村は100万人以下であり、後志内への入境者の分布が大きく3極化していることがわかる。各地域の観光商材の質と量が豊富であることにもよるが、後志では日帰りと一泊客が多いことから、複数の道路網を利用した多種の旅行目的へアクセスが可能となる地理的優位性が入境に強く働きかけるエリアであることがうかがえる。

一方、昨年12月8日に、札幌方面からの利用の多い札幌自動車道に後志自動車道余市IC-小樽JCT間延長23.3kmが接続・開通<sup>(3)</sup>し、札幌中心部からの時間距離が約19分間短縮された。この結果、札幌から小樽-ニセコ方面へ向かう朝里IC-赤井川村経由ルート<sup>(4)</sup>とは別に、高速余市ICから仁木方面の主幹道路である国道5号線に直接接続するルートが新設されたことになる。この影響は、積丹半島突端までの往復時間距離を1時間弱程度短縮させ、半島地域全体を道央圏の「日帰り圏」にする効果をもたらすことになる。

2031年開業予定の北海道新幹線の函館-札幌延伸<sup>(5)</sup>に先立ち、これらの広域高速交通網の整備による経済波及効果を高めるために、後志総合振興局と管内自治体および観光協会等民間団体は、後志の新たな地域資源の発掘と利活用を図るための総合地域計画<sup>(6)</sup>を打ち出した。

しかしながら、来訪者が多く、地域観光資源が豊富で受入側の人材が整っている小樽やニセコエリアにとっては効果的な施策となろうが、先に示した積丹半島側の北後志地域、および都市部からの時間距離が比較

的大きな管内他地域への波及効果については計量的推定が困難であり、これらの地域特性に合致した他の方略を別立てで策定して試行することも必要となる。実際、年間来訪者数が低位の寿都町などでは、近年のマスツーリズムからの脱却による個人ツーリズムや、長期滞在を要するエコツーリズム・アグリツーリズム<sup>1)</sup>を可能とする地元受入側の体制整備を進めてきている。この結果として、2008年から内閣府と全省庁が一丸となって予算措置した「農泊」「渚泊」などの農村-都市交流事業の外延事業によって、体験型短期滞在研修旅行の獲得に成功している。さらに、観光庁が海外インバウンドの獲得政策を織り交ぜ、地方経済の救世主的方略として、新たなエコツーリズム<sup>2)</sup>の振興が進められており、このような近年の政情を踏まえた産官学金労言に渡る地域政策がそれぞれの自治体に求められている。<sup>(7)</sup>

他方、通例の観光調査は、経済波及効果の推定のために、集客数が見込める夏季に集中して行われることが多い。しかしながら、SDGsが象徴している持続的発展と地域整備<sup>(8)</sup>のためには、来訪者の平時における動向特性を把握し、これを地域施策に落とし込む必要がある。

本稿の目的は、以上のような急速な地域社会の変容を踏まえた上で、集客力中位にある積丹半島地域の地域資源の利活用による地域-都市交流の促進を図るための地域施策に資する基礎的知見を、季節性と地域性のある旅客動向の広域調査から得ることにある。また、このような広域の通過旅客者を対象とするOD調査<sup>3)</sup>の方法論を検討できるように、調査過程全体を提示した。

## 1. 語句の定義

本論の研究目的に照らすと、観光を求めて入出境する来訪者と、業務や日常生活で往来する事業者や市民などを含む旅客を分けずに、交通状

態を計量的に観測する必要がある。また、これらの統計量はそれぞれの地理的特徴によって異なる傾向を持つことが予測されるため、当該地域全域に共通した地勢的区分をはじめに定義しておかなければならない。

図1に示したように、9町村から構成される積丹半島側の自治体は、海路以外は沿岸の外周道路で囲われる地理的特徴が認められる。特に、道南からの主幹道路である国道5号線沿線にあたる共和-ニセコ-仁木-余市エリアから、これに直接道路接続する4町を通じて積丹半島側に旅客が入出境する地勢的特徴を有する。

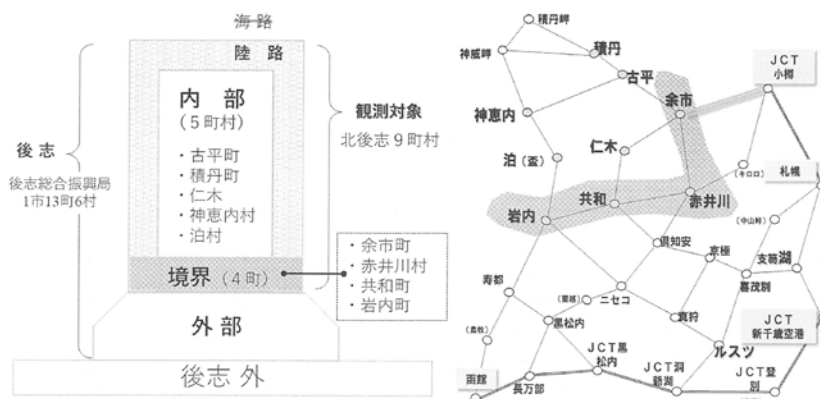


図1 北後志地域の地勢的特徴と領域の定義  
(左：模式図，右：簡略版ロードマップ)

この図に従い、本稿では、地理的な領域区分を、**内部**：古平町・積丹町・仁木町・神恵内村・泊村の5町村，**境界**：余市町・赤井川村・共和町・岩内町の4町村，**外部**：境界に直接接続する寿都町・ニセコ町・倶知安町・キロロおよびその他の後志地域，の3領域に分けて用いる。

一方、旅客の移動目的や状況および移動方向によって「観光客 *tourist*」「旅行者 *traveler*」「旅客 *passenger*」「移動者 *migrant*」「来訪者 *visitor*」「入境(者) *inbound*」「出境(者) *outbound*」など、種々の呼称が生じる。

本研究では積丹半島地域を移動する域内外の一般的な旅客と、もっぱら外部から入境する観光客を特段に分けずに、それぞれの移動傾向を調べることから、本稿においては移動手段をもって北後志を移動・入出境する旅行者全体を、特段の記述が必要な場合を除き、**旅客**と総称する。

また、季節については、「夏(秋)」「夏(秋)季」「夏(秋)期」など、四季の区分、学事休業期間などを含む記述がされて混同を生じる。本稿では調査日の明確な時点を定める**初夏**と**晩秋**を用いる。

## 2. 調査設計

### 2. 1 調査地点と使用地図

対象自治体で観光客の立寄頻度の高い「道の駅」および「観光スポット」を調査ターミナルに設定した。

回答者に負担を与えず、かつ、移動目的に合致した正確な旅行ルートと経路上でのイベントの記録には、必要最小限の調査項目の配置と、非言語系の視覚記憶に訴えかける調査票の設計<sup>4)</sup>が重要になる。図2に、調査個票に掲載する候補とした地形図、地図、ロードマップ、道路網を示す。表現された地理情報はそれぞれの利用目的で異なっており、感覚的な空間把握に優れたもの、厳密な地形情報を表示するもの、道路情報と路側施設情報に詳しいもの、時間距離圏が一瞥できるもの、など様々あり、一般旅客向けの「地図」を特定することは困難であった。

1回目調査では、道路分岐が詳細にわかる市販のドライブマップ(道路マップ)を使用した。当該地域の道路情報を持ち合わせていない回答者が経路の回答に窮し、不確かな経路を示すことが多くみられた。2回目調査では、このような不確実な情報を記録しないように、後志観光連盟が道の駅に配布している観光マップ(「しりべしガイドマップ」)掲載の簡易道路地図(「市町村間距離&所要時間」地図)を原版に用い、この地

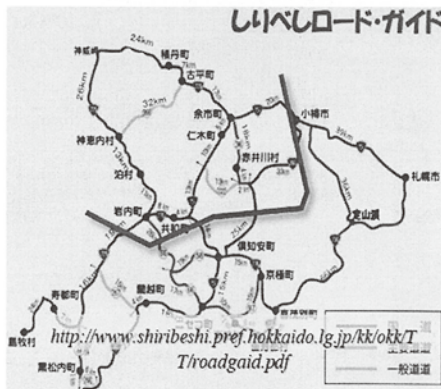
図をトレースして、北後志に接続する主幹道路を強調して改編した簡易版道路マップを用いた。図1の右図がこれに該当する。



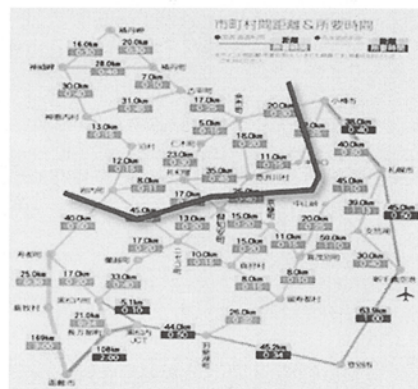
(1) Google MAP/Earth



(2) ロードマップ(ゼンリン)



(3) 模式的ロードマップ(ネット上配信)



(4) ShiriBeshi GUIDEMAP  
後志観光連盟 \* 市町村時間距離

図2 調査個票掲載用地図候補(1~4)の原版

## 2. 2 調査期間

後志には、夏季休業期間に大量の観光客が入境する。調査密度と回収効率はこの時期に最大となるが、調査目的が、通年的な旅客動向を推定することにあるため、家族連れのための観光客に偏る可能性のある、この

期間の調査は避けた。

現地調査は、調査地点間の面的接続性を保持するための横断研究を夏休み直前の連休 7 月 15(土)・16 日(日)に全調査地点で行った。<sup>(9)</sup> 夏休み期間を空け、入境目的と経路の時期的変化を捉える縦断研究のために、東積丹と西積丹側の境界で 10 月 6 日(土)に 2 回目の調査を実施した。

他方、「みちの駅赤井川」は、道央一札樽高速自動車道を用いず、国道・道道を利用する観光客がニセコ・積丹方面に向かう「現道利用」の交通結節点となっている。このため、10 月 20 日(土)に 3 回目、21 日(日)に 4 回目の調査を付加して、パネルデータの観測ポイントとした。

## 2. 3 調査項目

調査目的に合致する以下の質問項目を設定した。回答者に負担を与えず、かつ、正確な回答を迅速に得られるように、前ページの簡易ロードマップとともに A3 一枚に収まる調査個票を設計した。

他の観光 DMO/DMC や官公庁などの KPI データ<sup>(10)</sup>との整合をとることに配慮し、後志商工労働観課 HP 上の旅行目的 9 項目<sup>(11)</sup>を採択したが、調査時間と調査員の練度の制約上、最小限の項目数となった。

1 回目の調査票を用いた調査で明らかとなった、答え難さや不明回答となる質問項目と質問文を改良しながら、調査票の様式は最終的には 3 種類となった。以下には、調査 3 回目以降の調査票の項目を示すが、他の調査回に通底する共通質問項目<sup>(12)</sup>になっている。

次の第 1 項で、国内個人旅行者向けの固定質問項目を枠囲いで示し、その設計意図を述べる。第 2 項では、同様の趣旨をもつ、バスツアー団体客およびインバウンド旅客用の質問項目を示す。

### 1) 国内個人旅客用

**Q 1 旅行目的** 後志総合振興局商工観光課が HP 上で公開している、以下の観光名所カテゴリー<sup>(13)</sup>を用いた。これらのカテゴリーは、積丹

半島地域には該当の無いものもあるが、調査地点を通過する旅客の移動目的と目的先を調べるための標準指標として用い、複数回答を許した。

1. 温泉,
2. フットパス・散策・登山,
3. エステ,
4. 食,
5. 名水,
6. 花,
7. 産業観光・文化施設,
8. スポーツ施設,
9. アウトドアレジャーポイント,
10. 一般観光・ドライブ,
11. その他

**Q 2 旅行満足度** 前問 Q1 の旅行目的に即して「満足できた」項目を複数選出させた。後志での旅行満足度を Q1-Q2 の対比分析から得るための設問である。反応させる質問項目は Q1 と同一である。

**Q 3 催行者の関係と人数** 個人・小集団旅行における仲間関係と、催行人数の関係を調べるための設問である。

1. ひとり,
2. 家族,
3. 親戚,
4. 友人,
5. 恋人,
6. その他 人数( )人

**Q 4 宿泊・日帰り** 後志全域での宿泊の有無を調べた。宿泊地点・場所について詳述な記述式とした 1 回目調査では、短時間に回答を得ることができず、回答者の負担が多かったため、2 回目以降の調査では、宿泊費用・旅行中の出費費目と金額も含めて地図上にこれを調査者が記入する方法とした。

1. 宿泊数( )泊,
2. 日帰り

**Q 5 調査対象者の属性** 回答者者の年齢と性別のみを求めた。他の同行者については、必要に応じて聞き出した。

**Q 6 旅程・経路** 旅程分析のためには、出発地・経由地(往復)・目的地が必要となる。1 回目調査では、これに立ち寄り場所と分岐方向、各地点での出費内容を問う複数の記述式質問としたため、未回答が多



く、回答精度も保証できなかった。2回目以降では、以下の移動経路情報と出費費目および金額の2種類に限定しQ4とともに聞き出した。

- ・ 出発地/目的地，経由地/経路(線分)，進行方向(矢線)
- ・ 各経由地での支出費目と金額

## Q外 その他の記録

調査場所と日時，回収時刻および調査員が特定できる記載欄を設け，全調査員がこれを記載してデータの転記と集計ミスを防ぐタグに用いた。

## 2) バスツアー観光客・インバウンド観光客用

インバウンド観光客を含むバスツアーによる多数の観光客に対して，上記の個人旅客の個票を用いた調査を行うと，大量の同一データが収集されて，回答傾向に偏在を生じさせる。バスツアー客の動態については，該当ツアーの催行法人の情報を後日問い合わせれば良いため，目視もしくは聞き取りの段階で，これらの観光客からの聞き取りを排除するように配慮した。

しかしながら，調査期間中のインバウンド観光客<sup>(14)</sup>については，今後の調査対象地域にとって重要な対象客となることを見込まれるため，別途，以下の質問項目を用意してバスツアー添乗員もしくは運転手に直接聞き取り調査を行った。ヒアリング項目は以下となるが，荒天と地震災害のため旅行キャンセルが相次ぎ，本年度の調査実数は極めて少なくなった。このため，アンケートデータを統計的に処理することができないため，本稿では参考までにとどめる。

### Q1 バス旅客の国別人数

(例：中国人5人，韓国人2人，日本人6人)

### Q2 移動経路・経由地

現在地までの旅程，これからの旅程，休憩滞在場所をマークし，地

図上の国道や道道に沿って経路をペンでなぞる。

**Q 3 ツアー料金**<sup>(15)</sup> (例：札幌駅から 5,600 円)

**Q 4 ツアー内容** 旅行目的と、行動内容

(例：仁木町で果物狩りをして昼食にバーベキュー。積丹岬で散策して、ニセコで宿泊。明日はそのまま帰札し、千歳空港から翌日帰国する。)

**Q 5 旅行会社名**<sup>(16)</sup>

(例：旅行会社は、韓国のロッテツアーで、バスはシー ビーツアーズ)

**Q 6 旅行商品名**<sup>(17)</sup> (Q 5 の回答が有効)

商品名はバスに掲示しているので撮影許可をとる。

### 3. 調査結果

#### 3. 1 回答数

調査実績を表 1 に示す。7 月 14 日(土)15 日(日)の「初夏」に実施した古平町を除く 8 町村一斉調査の有効回答数は 698 件となった。雨天での調査であったが、調査地点あたり平均 87.3 件の回答が得られ、面的に均質な状態における観測によって統計的分析が可能となった。

10 月 6 日、20 日、21 日の「晩秋」の調査は、主に境界の 4 町村で実施し、調査地点あたり平均 75.6 件、計 361 件の回答を得た。当初、夏期休業開けの 9 月初頭に実施する予定であったが、複数の大型台風の通過に伴って天候に恵まれず、ニセコと岩内をつなぐ共和町神仙沼を經由する道道 66 号線の冬季閉鎖直前の実施となった。晩秋の有効回答数は 361 であった。

表1 調査実施概要と回答件数

季節	回	調査日	自治体	調査地点	回答件数
初夏	1	7月14,15日	赤井川	道の駅あかいがわ	115
			岩内	ガイドセンターたら丸館	49
			神恵内	道の駅オスコイ!かもえない	103
			共和	神仙沼自然休養林休憩所	42
			積丹	神威岬・積丹岬	64
			仁木	フルーツパーク仁木	119
			泊(盃)	さかざきテラス	55
			余市	スペースアップルよいち	151
地点あたり平均回答数		87.3	小計		698
晩秋	2	10月6日	岩内		67
	3	10月20日	神恵内		31
			神威岬*		66
			積丹岬	(初夏と同じ)	39
	4	10月21日	岩内		56
		共和		49	
地点あたり平均回答数		45.1	赤井川		53
総平均回答数		75.6	小計		361
			総計		1,059

\*インバウンド客調査地点としたが、初夏の大雨と秋の台風通過により、大型キャンセルがあって調査不能

### 3. 2 旅行目的と満足度

「旅行目的」は全ての調査で聞き取り、1回目の回答のしにくさを考えて2回目以降では調査項目数を整理して減数した代わりに、旅行満足度を加えて補填した。表2の左欄の表頭に、境界と内部別に調査地点を配し、表側に旅行目的を11種類の固定項目としてクロス表に組んだ。

重複回答を許す旅行目的の選択件数と平均数は、初夏に906件(1.30)、晩秋で594件(1.65)となった。晩秋の方が複数の目的を持って移動する旅客が多いように見えるが、統計的な有意差は無く、季節によらず平均1.42件程度の目的をもって入境していると考えられる。

各地点のアンケート回収数は異なっており、表中の数値や回収数当たりの項目反応数の度数百分率(%)を直接比較しても、どの旅行目的に対してどの地域が有意であるかは判然としない。また、境界は後志外部と接しており、この地点を通過する旅客は、内部方向だけでなく外部方向、もしくは境界ルート間を辿って移動できるので、内部とは異なる旅行目

的を選択して移動している可能性がある。旅行目的に関する地域間・季節間の差異を単一の指標で比較するため、本稿では特化度を用いた。同表の右欄に示す特化度は、境界と内部に属するそれぞれ4町村の旅行目的的別出現頻度比を、境界と内部でのそれぞれの頻度比で除して計算した。以下の統計的な判断は、全てこの特化度に基づいている。

表2 旅行目的と満足度および特化度

		境界				内部				周辺計	特化度								個数				確率	
		余市	赤井川	共和	岩内	仁木	積丹	神恵内	泊(※)		余市	赤井川	共和	岩内	仁木	積丹	神恵内	泊(※)	境界	内部	境界	内部		
旅行目的	1温泉	20	22	24	6	6	7	31	7	123	0.8	1.2	2.1	0.8	0.3	0.6	1.6	0.7	72	51	1.7	1.3		
	2フットバス・散策・登山	1	3	18	0	7	3	9	3	44	0.1	0.4	4.4	0.0	1.0	0.7	1.3	0.8	22	22	0.5	0.5		
	3エステ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	0	0.0	0.0		
	4食	59	31	19	6	66	28	64	7	280	1.0	0.7	0.7	0.4	1.5	1.1	1.4	0.3	115	165	2.7	4.1		
	5名水	1	6	4	1	0	0	4	1	17	0.3	2.3	2.5	1.0	0.0	0.0	1.5	0.7	12	5	0.3	0.1		
	6花	1	4	3	0	1	5	1	1	16	0.3	1.6	2.0	0.0	0.4	3.4	0.4	0.8	8	8	0.2	0.2		
	7産業観光・文化施設	10	44	8	5	17	2	3	22	111	0.4	2.6	0.8	0.7	1.0	0.2	0.2	2.5	67	44	1.6	1.1		
	8スポーツ施設	2	3	1	0	0	1	0	3	10	1.0	1.9	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	3.7	6	4	0.1	0.1		
	9アウトドアレジャー	14	13	5	1	29	6	9	10	87	0.8	1.0	0.6	0.2	2.1	0.8	0.7	1.4	33	54	0.8	1.3		
	10一般観光・ドライブ	29	0	1	4	8	3	4	6	55	2.6	0.0	0.2	1.2	0.9	0.6	0.5	1.4	34	21	0.8	0.5		
	11その他	47	13	2	32	8	28	19	13	162	1.4	0.5	0.1	3.3	0.3	1.9	0.7	1.0	94	68	2.2	1.7		
周辺計	184	140	85	55	142	83	144	73	906	SD 1.08								464	442	11.0	11.0			
														42		40								
旅行目的	1温泉	20	1	16	28		4	8		77	1.3	0.1	2.2		6.0	0.6	0.7	65	12	1.5	1.2			
	2フットバス・散策・登山	3	1	20	2		8	1		35	0.4	0.2	6.1		0.9		2.5	0.2	26	9	0.6	0.9		
	3エステ	0	0	0	0		0	0		0									0	0	0.0	0.0		
	4食	25	17	3	38		11	11		105	1.2	1.0	0.3		6.0	1.1	0.7	83	22	1.9	2.2			
	5名水	1	3	3	3		0	0		9	0.5	2.2	3.6		5.5	0.0	0.0	10	0	0.2	0.0			
	6花	0	0	0	0		0	0		0									0	0	0.0	0.0		
	7産業観光・文化施設	1	0	0	4		0	0		5	1.0	0.0	0.0		13.2	0.0	0.0	5	0	0.1	0.0			
	8スポーツ施設	0	1	0	1		0	1		3	0.0	2.2	0.0		5.5	0.0	2.1	2	1	0.0	0.1			
	9アウトドアレジャー	1	4	5	4		0	0		14	0.4	1.8	3.8		4.7	0.0	0.0	14	0	0.3	0.0			
	10一般観光・ドライブ	58	40	23	67		32	26		242	1.2	1.1	1.0		4.6	1.4	0.7	188	58	4.2	5.7			
	11その他	6	36	11	42		4	6		104	0.3	2.2	1.1		6.7	0.4	0.4	95	10	2.1	1.0			
周辺計	115	103	81	189	0	59	53	0	594	SD 2.46								488	112	11.0	11.0			
満足度	1温泉	17	11	16	24		2	12		81	1.0	0.9	2.1		4.9	0.3	0.9	65	12	1.5	1.2			
	2フットバス・散策・登山	3	1	18	2		8	5		37	0.4	0.2	5.2		0.9		2.4	0.9	26	9	0.6	0.9		
	3エステ	0	0	0	0		0	0		0									0	0	0.0	0.0		
	4食	37	13	6	35		10	16		117	1.6	0.7	0.5		4.9	0.9	0.9	83	22	1.9	2.2			
	5名水	2	3	4	6		0	3		17	0.6	1.1	2.5		5.8	0.0	1.1	10	0	0.2	0.0			
	6花	0	1	0	0		0	0		1									0	0	0.0	0.0		
	7産業観光・文化施設	1	0	0	6		0	1		8	0.6	0.0	0.0		12.4	0.0	0.8	5	0	0.1	0.0			
	8スポーツ施設	0	1	0	0		0	2		3	0.0	2.2	0.0		0.0	0.0	4.2	2	1	0.0	0.1			
	9アウトドアレジャー	3	0	5	3		0	3		14	1.1	0.0	3.8		3.5	0.0	1.3	14	0	0.3	0.0			
	10一般観光・ドライブ	49	15	10	49		29	13		165	1.5	0.6	0.6		4.9	1.9	0.5	188	58	4.2	5.7			
	11その他	5	3	9	9		4	1		31	0.8	0.6	3.1		4.8	1.4	0.2	95	10	2.1	1.0			
周辺計	117	48	68	134	0	53	56	0	474	SD 2.17								488	112	11.0	11.0			

1) 旅行目的の分布と相互相関

図3に、全域と地域別の旅行目的の分布を表した。「食」を求めて入境する旅客が圧倒的多数であり、次いで、「その他」、「温泉」、「産業観光・文化施設」、「アウトドア・レジャー」、「一般観光・ドライブ」、「フット

パス・散策・登山」が続き、他の目的は僅少で、旅行目的には地域差が存在していることがわかる。

ただし、ここで注意すべきことは、旅客が**その地点に回答した目的を求めて来訪している訳ではない**ことである。ある目的を達成するために、その地点を通過する可能性が高いことを表しているに過ぎないため、明確な目的地、すなわち着地点他 Destination を持つ他の OD 調査の出現頻度とは異なった意味あることに注意が必要である。

「食」に次いで多い「その他」の目的を文末の資料にまとめて示したが、当該観光協会が用意した固定項目では拾えない「買い物」「墓参り」「送迎」「用事」「業務」「社員旅行」「帰省」など、日常生活に近い交通の多いことをうかがわせる。このことは、目的間のボンフェローの一对比較によって「食」を目的とする旅客のみが、「その他」を除く全ての目的と有意な相関を持つことから示唆されよう。北後志の旅客は「食」を共通目的として、プラスアルファの目的のために移動していると考えられる。

さらに旅客が旅行目的をランダムに選んで入境し移動していると仮定した場合、特定の目的を選択することがあるかを判定するために行ったメタ分析の結果を図4に Forest Plot として表した。初夏の旅行では、特定の目的を持って入境する傾向が強く認められ、「食」と「アウトドア・レジャー」に高い反応がある。晩秋においては、「温泉」や墓参りなど「その他」の群と、「フットパス・散策・登山」と「一般観光・ドライブ」の群に分化する傾向がある。「食」と「観光」は常に後志の観光に求められている定番的な旅行目的であり、北後志に入境する旅客も同様の傾向を示している。

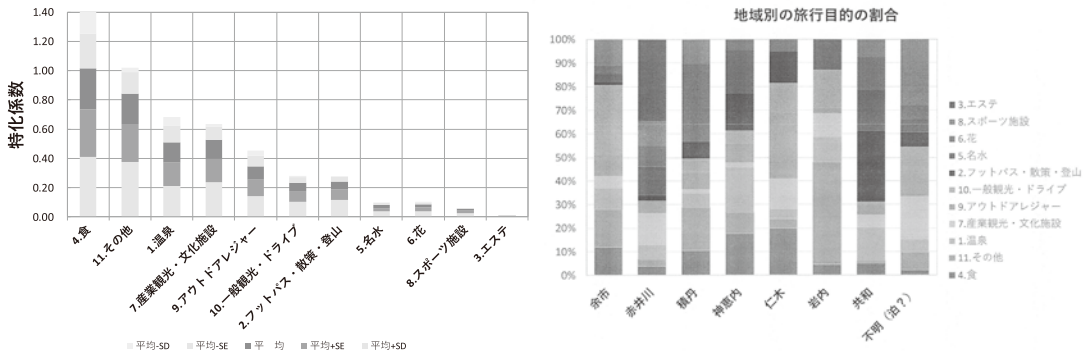


図3 旅行目的の分布 (左: 全域, 右: 各地点別)

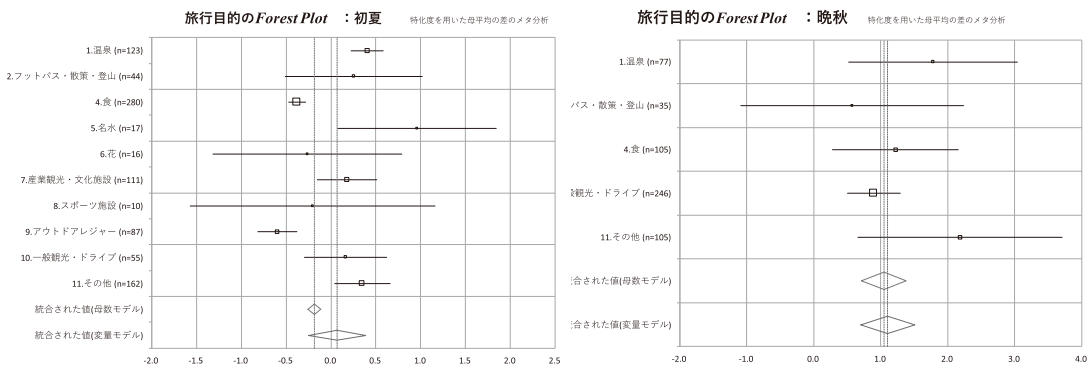


図4 旅行目的間の差異(左: 初夏, 右: 晩秋)  
□の大きさはデータ数, 位置は平均, バーはデータレンジ,  
◇はモデル別推定平均

## 2) 地域間と季節間の差

特化度の全平均は1で、標準偏差SDは初夏で1.08、晩秋で2.46程度であるが、晩秋では5~7近くになるクロスセルがある。これらは観測数が数件であるものが多く、特化度全体の分布からすると外れ値である可能性がある。このため、ジャックナイフ法を用いて旅行目的および季節別の地域を縮退させ、特化度を再計算した結果を表3に示した。

表3 次元縮退した旅行目的の特化度

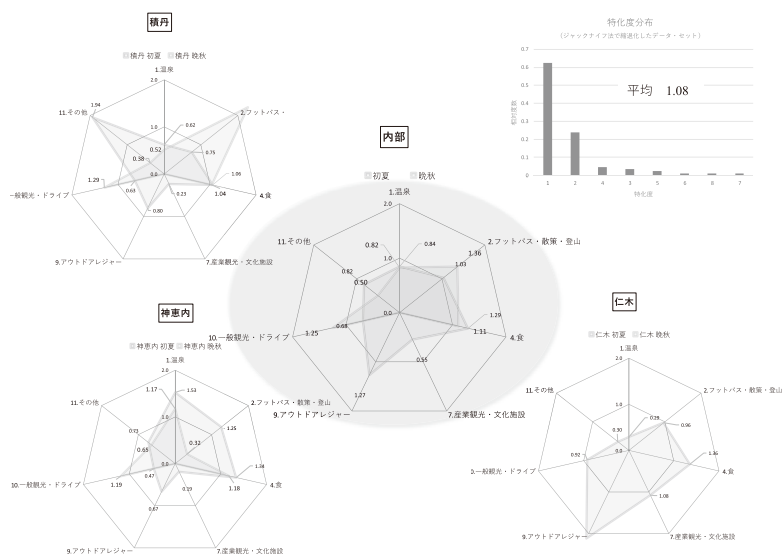
指標	観測数														周辺計				
	領域		境界								内部						全領域		
	地点		余市		赤井川		共和		岩内		仁木		積丹		神恵内				
観光目的 (入境目的)	時期	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	全季節	初夏	晩秋	
1.温泉		20	20	22	1	24	16	6	28	6	0	7	4	31	8	193	116	77	
2.フットバス・散策・登山		1	3	3	1	18	20	0	2	7	0	3	8	9	1	76	41	35	
4.食		59	25	31	17	19	3	6	38	66	0	28	11	64	11	378	273	105	
7.産業観光・文化施設		10	1	44	0	8	0	5	4	17	0	2	0	3	0	94	89	5	
9.アウトドアレジャー		14	1	13	4	5	5	1	4	29	0	6	0	9	0	91	77	14	
10.一般観光・ドライブ		29	58	0	40	1	23	4	67	8	0	3	32	4	26	295	49	246	
11.その他		47	6	13	36	2	11	32	42	8	0	28	4	19	6	254	149	105	
		180	114	126	99	77	78	54	185	141	0	77	59	139	52	1,381	794	587	

特化度*															
領域		境界								内部					
地点		余市		赤井川		共和		岩内		仁木		積丹		神恵内	
観光目的	時期	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋	初夏	晩秋
1.温泉		0.76	1.34	1.20	0.08	2.13	1.56	0.76	1.15	0.29	-	0.62	0.52	1.53	1.17
2.フットバス・散策・登山		0.11	0.51	0.46	0.20	4.53	4.97	0.00	0.21	0.96	-	0.75	2.27	1.25	0.32
4.食		0.95	0.64	0.72	0.50	0.72	0.11	0.32	0.60	1.36	-	1.06	1.04	1.34	1.18
7.産業観光・文化施設		0.50	0.08	3.12	0.00	0.93	0.00	0.83	0.19	1.08	-	0.23	0.00	0.19	0.00
9.アウトドアレジャー		0.80	0.09	1.06	0.42	0.67	0.66	0.19	0.22	2.12	-	0.80		0.67	
10.一般観光・ドライブ		2.61	8.24		6.55	0.21	4.78	1.20	5.87	0.92	-	0.63	1.29	0.47	1.19
11.その他		1.39	0.28	0.55	1.94	0.14	0.75	3.16	1.21	0.30	-	1.94	0.38	0.73	0.65

\*季節別、領域別母数で算出

縮退したデータ・セットでは、旅行目的の「エステ」「名水」「花」「スポーツ施設」および初夏の泊(盃)が分離され、縮退前の最大値が13まであった特化度値が8まで低下し、その分布はポアソン過程に載る指数分布になった。このような次元の縮退は、本質的に特化性のある対応を切り捨てる可能性もあるが、第二種過誤による施策上のミスリードをふせぐ安全側の見積もりになっている。新たに得られたクロス表から内部と境界にそれぞれ属する町村のレーダーチャートを図5に示し、以下に領域別の傾向についてまとめる。

(1) 内部 初夏は「食」「アウトドア・レジャー」が、晩秋では「フットパス・散策・登山」「一般観光・ドライブ」が主目的となっている。積丹半島にはキャンプ場や食提供の場が多くあり、夏場は内部に旅客が留まっている可能性が高い。特に神恵内で、「温泉」「フットパス」「観光資源」などへの分岐が顕著であり、積丹半島側から後志観光ルートとなる泊と仁木にも同様の傾向がみられる。晩秋は積丹で「散策」「ドライブ」が優勢になり、「温泉」「食」は減少していることから、内部から域外へ向かう傾向をもつ。他地域での散策もしくはドライブのために内部を通過していく旅客が多く、これらを内部に引き止めておくための「フットパス・散策・登山」と、通年的な要望のある「食」との組み合わせが今後の有効な地域施策であると思われる。



(1)内部領域 (積丹・神恵内・仁木)  
図5 旅行目的の領域別地点別レーダーチャート

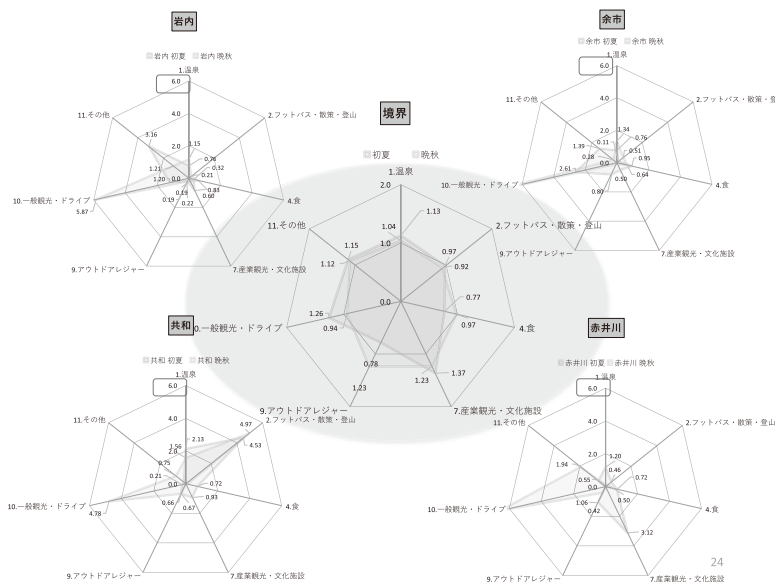
(2) 境界 初夏は「アウトドア・レジャー」以外の目的全てが優勢となっており、それぞれの目的が達成できる方向に高頻度で通過している



可能性が高い。

通年的に見ると、余市は「観光」「ドライブ」目的客の流入があり、岩内は「一般観光・ドライブ」「産業施設探訪」が多く、共和は「フットパス・散策・登山」「アウトドア・レジャー」に特化した旅行目的を持った旅客が集まっている。赤井川は初夏にニセコ方面への入出が強化され、晩秋には散策・アウトドア・イベントを目的とした旅客が多くなる。これらの傾向から、境界においては、余市と赤井川が季節によらず安定的な交通流の結節点となっていることが推測される。

一方、夏季は、積丹半島側での「アウトドア・レジャー」が繁忙期を迎える時期に当たっていることから、境界から半島側への移動強度について、主幹ルートや分岐量などの交通流調査の結果と比較検討する必要がある。晩秋は、逆に「アウトドア・レジャー」「産業観光・文化施設」などの特定の旅行目的が増加しており、これらの拠点地域との情報交換や事業連携が地域施策として有効に働く可能性がある。



(2)境界領域 (岩内・共和・赤井川・余市)  
 図5 旅行目的の領域別地点別レーダーチャート

(3) 全般の傾向 北後志の旅行目的全般を鳥瞰する。

図6にコレスポンドンス解析とクラスター分析の結果を、第2切断面の領域を付して図示した。初夏においては、内部では「アウトドア」と「食」のクラスと、境界では、他地域などへ向かう可能性のある「名水」「産業観光・文化施設」「スポーツ施設」「その他」「温泉」に、明確に分離されている。晩秋は、内部領域も境界も「一般観光・ドライブ」が強度を持ち、内部内外に流入と流出のある自然散策や景観探訪の目的が主となる働きが強まっている。特に、晩秋では「フットパス・散策・登山」が独立して存在していることに特徴がみられる。

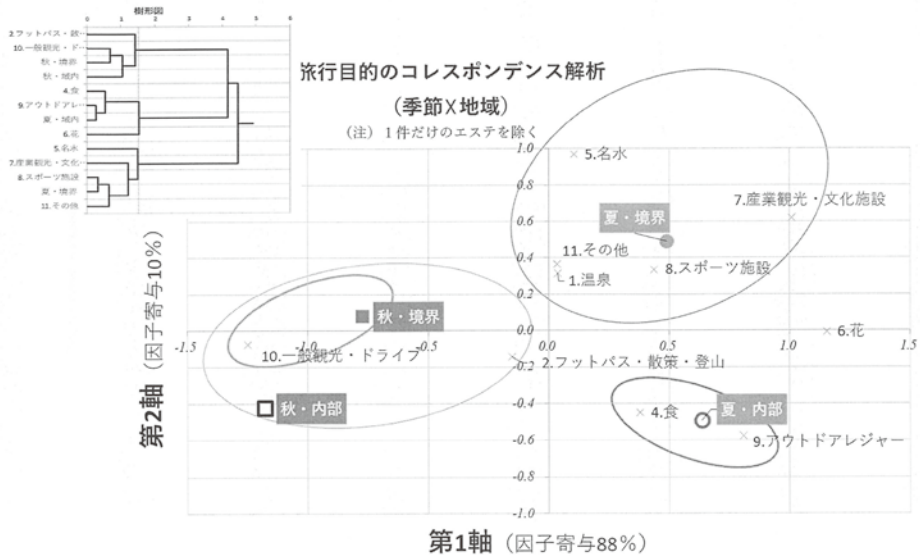


図6 旅行目的の季節性と地域性の対応分析  
コレスポンドンス解析とクラスター分析のデンドログラム

3) 旅行目的と満足度の関係

各旅行目的が与える満足度は旅客によって異なる。より詳細な変化をとらえるために、旅行目的と満足度の相関を図7に示した。各軸は旅行目的の選択比率と満足を得た比率を表し、直線はそれぞれが同じ比率となる「境界線」である。この境界線より上側にある旅行目的は、より高

い満足度を与える傾向を持つと考えられる。図中の吹き出しを付していないプロットは、旅行目的としては選択される比率が高くない、いわゆるマニアックな旅客のものであるが、いずれも満足度が高い領域に入っている。満足度高位の旅行目的は、順に「ドライブ」「食」「温泉」となっており、一般的な観光イメージに即した結果となっている。

境界線からの距離で本質的な満足度を判断すると、旅行目的の選択率が中位の「温泉」「食」もまた、満足度が高い群に入る。一方、満足度が最高位である「一般観光・ドライブ」に対する本質的な満足度はさほど高くなく、日常業務的な目的を含む「その他」は最低となる。この心理的傾向は、観光シーズン中であれば広域移動を伴うドライブは「ありふれた行為」となり、観光を目的としない通過客にとっては「日常的な行為」となっていることに求められるだろう。

「一般観光」「散策」「登山」および「ドライブ」など、後志地域で定番となったコトよりも、温泉やイベントなどを組み合わせた季節性と地域性のあるモノとコトによって満足度が高まると思われる。通過観光客や一般のドライバーに対しては、地域性のわやすい「食」を通じた新鮮な楽しみを提供し、適時的確に情報配信していくことも必要であろう。

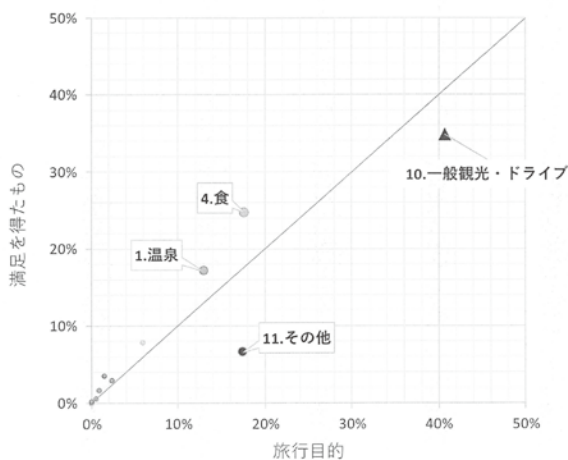
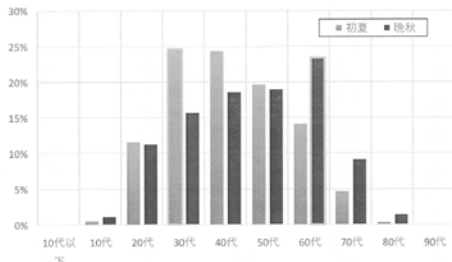


図7 旅行目的と満足度の相関（晩秋のみ）

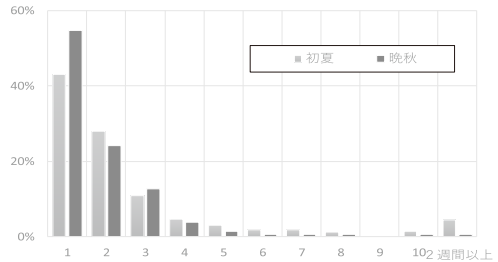
## 2. 3 旅行者属性と支出費用額

### 1) 旅行者の属性

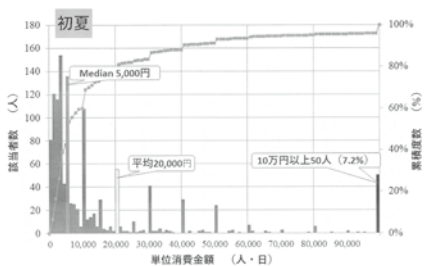
図8に旅客の季節別年齢構成、泊数および旅行中の支出額を示す。季節にかかわらず、家族連れが65%を占めており、次いで友人15%、単身7%となっている。旅客人数は単身は9%程度で2名にモードがあり、初夏では4名までなだらかに分布しているが、晩秋は初夏より13%多い52%となり尖度が大きい。年代は季節で両極的対照となり、初夏は30代と40代をまたいでモードがあり、晩秋は60代にある。20代は常に10数%認められ、70歳以上は晩秋のみに表れる傾向が強い。宿泊に関しては季節に関係なく日帰りが57%を占め、宿泊日数は1日にモードがあり、初夏では3泊までと、晩秋では2泊までが全体の80%を占めている。



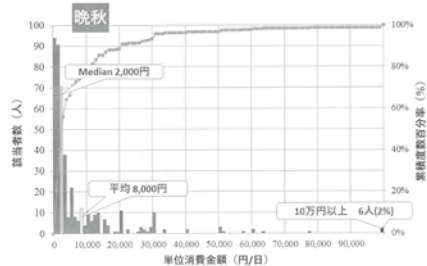
(1) 年齢組成



(2) 宿泊数



(3) 単位消費金額(初夏)



(4) 単位消費金額

図8 旅客の季節別属性と支出額 (晩秋)

これらのことから、初夏は子供連れの家族もしくは少数の友人が 1～3 泊程度のキャンプなどを楽しみ、晩秋は夫婦連れか観楓や散策および温泉で 1～2 泊程度の宿泊を目的とした小集団で移動していることが推測される。

## 2) 単位支出額 (円/人・日)

季節別の一人あたりの支払額には大きな差が見られる。支出費目が不確定なため、これを限界支払い意志額に利用することはできないが、大凡の日単位支払い単価とみることではできらる。計数上、宿泊費との混濁があるが、中央値と算術平均値はそれぞれ、初夏が 5,000(20,000)円/人・日、晩秋が 2,000(8,000)円/人・日であり、前項で示した旅客組成に合致した傾向がうかがえる。

他方、初夏の度数分布において、晩秋には見られない、5,000 円と、10,000 円刻みの支出額に小さなピークが認められる。1 回目調査の質問の設定項目と聞き取り方法になんらかのバイアスがあるか、アンケート対象者がこのような整数値を好んで回答しているかは判然としない。今後の調査設計で考慮すべき側面である。

## まとめ

初夏には、年代の若い家族や友人の 3～5 名程度の集団が、「食」「アウトドア・レジャー」を目的として移動する積丹半島内部の群と、「温泉」「スポーツ施設」「産業観光・文化施設」「名水」など他地域と接続する境界地域の群とに分かれて存在している。いずれも日帰りが主であるが、1～3 泊程度の宿泊で 5,000 円/人・日程度の支出が見込まれる。

晩秋には、中高年の夫婦連れが散策・登山などを目的として移動しており、1～2 泊程度の宿泊で、20,000 円/人・日程度が支出が見込まれる。

特に少数ではあるが「フットパス・散策・登山」を志向する集団、「食」「温泉」を目的とする集団においては、高い旅行満足度を与えていることがわかった。これに対して、晩秋の「一般観光・ドライブ」や日常的な交通路に用いる旅客については、それほど高い満足度が得られていないことがわかった。

食や温泉と自然探訪など、既往の地域資源との組み合わせが可能な新たなエコツーリズムやアグリツーリズムが、積丹半島地域の有望な地域振興施策と成り得るであろう。

## おわりに

本研究では、各点での観測数が多くないため、クロス集計による統計的分析は施していない。単純集計の結果から導かれる巨視的傾向を示したに過ぎないことから、各項目間の因果関係を構造解析から推定できるように、観測例数を順次積み上げていくべきである。

また、統計的な結果が必ずしも現実を正しく表しているわけではない。今回のような面的観測だけでなく、粒子追跡的な調査を併用して、どのような属性の旅客が、どこで、どのような満足を得ているかについての質的調査の結果が求められるだろう。特に、旅行目的に置いた固定項目が、実際の旅客の実情を反映していないようであり、代表性の欠如が否めない。観光客だけでなく、日常生活者にも適応できる調査項目を再設計して実施していきたい。

本調査は、積丹町と札幌大谷大学が 2018 年に締結した包括連携の一事業として、しゃこたん半島観光振興会による委託事業として実施した。末文になるが、調査でお世話になった皆様と、研究の機会をお与えくださった積丹町観光協会の逢坂節子局長に、深く御礼申し上げる。

- (1) 「平成 28 年度後志総合振興局管内観光入込客数の概要」後志総合振興局(平成 29 年).
- (2) H29 年度の観光入り込み数の多い順に、小樽市・喜茂別町・ニセコ町・倶知安町・留寿都村・余市町・積丹町・赤井川村・京極町・蘭越町・岩内町・真狩村・仁木町・寿都町・神恵内村・共和町・黒松内町・泊村・古平町・島牧村の 20 市町村が構成自治体である。
- (3) H31 年 2 月現在において、高速道路利用料金は、札幌西～余市 1,080 となっており、札幌駅～積丹町(美国)までの高速バス(しゃこたん号)の片道料金 1,730 円(神威岬までは 2,160 円)と比肩する程度である。
- (4) 国道 393 号線と道道 36 号線の交差点に 2015 年に開設され、「メイプル街道 393」として、紅葉シーズンに限らず、余市～小樽の国道 5 号主幹線の「裏バイパス」として利用客が極めて多い(114 万人)
- (5) 2025 年に倶知安までの先行開業も期待されている。
- (6) 『可能性に満ち溢れた地域 ShiriBeshi-大きく変化する時代を見据えて-(後志総合振興局)』では、総務省主導の IoT 利用方策、高速交通インフラ整備による時間距離短縮の経済効果増強、外国人を主とするインバウンド客の取込み、地域資産への投資促進、ビッグイベントの開催、長期宿泊可能な地域への整備などを施行する。富裕層への商材売り込み・グローバル人材の育成を核とした「リゾート力」を活用した地域力の世界への発信を目指す合地域施策を、「地域課題と潜在需要を ShiriBeshi で縁結び」と称して打出している。本年 10 月 25 日には、ニセコ・倶知安地域にて国際 G20 観光大臣会合と関連活動を展開する
- (7) 「ニッポン一億総活躍プラン(10)観光先進国の実現」(平成 28 年 6 月 2 日閣議決定)など
- (8) 「持続可能な開発のための 2030 アジェンダと日本の取組」外務省(2017 年 3 月 31 日)  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ODa/sdgs/pdf/000270587.pdf>
- (9) 6 月 28 日から 7 月 8 日にかけての「平成 30 年 7 月豪雨」の影響で観光入込み状態が激変していた。
- (10) 後志総合振興局管内観光入込客数調査/後志総合振興局管内訪日外国人宿泊者数調査/全道版など
- (11) 調査計画時点で公開されていた HP 情報が昨年秋に改編され、参照できなくなっている。統計データの URL は  
<http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/kankou/irikomi.htm>.
- (12) 次回以降の国内旅客宛調査では、これらの項目が尤も有効な最小限度の質問になったと思われる。
- (13) 観光項目の出典 <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp>

/ss/srk/kankou/kanko-index.htm 11月現在において、振興局商工観光課のHPが更改され、該当項目について検索できないようである。

- (14) バスの停泊場所が固定されており、かつ天候次第でツアーが取りやめになるなど、任意ヒアリングによる調査では正確なデータが取り得ない局面のあることがわかった。また近年のレンタカーによる入境海外観光客については、別途、調査の工夫を要することがわかった。
- (15) 出国先のパッケージ料金は、添乗員・運転手は知らないことが多い。
- (16) 旅行主催者とランドオペレータの違いに留意する必要がある。
- (17) 旅行会社名も旅行商品と並行して、バスに掲示しているが、旅行主催者とランドオペレータの違いまでは写真では判らない。

#### 参考資料 Q1 旅行目的の「11.その他」に収録された語彙の抜粋

##### 初夏

アイドルのツアー、アウトドア、アウトドアレジャー、遊び、遊びではない／何かしらの用事、息抜き、海、小樽の温泉、お墓参り、親孝行、買物、神威岬、観光、レジャー、帰省、キノコ王国、気分転換、キャンプ、兄弟に会いに、グリパーク、バス、結婚式、コテージキャンプ、サクランボ狩り、サッカーの大会、サッカー応援、里帰り、散策、仕事、社員旅行、積丹、積丹に行く、積丹ブルー、しゃっこい祭(京極)、知合いに会いに、神仙沼、親族と会う、スタンプラリー、スポーツ、近場である、ツーリング、バイク、道内巡り、道南旅行、登山、ニセコ観光、ニッカウスキー、農家ツアー、墓参り、暇つぶし、道の駅、ファンクラブのツアー、北海道88か所巡り、祭り、スタンプラリー、道の駅ピンバッチ集め、道の駅めぐり、道の駅巡り、娘の見送り、友人に観光案内、用事のため、旅行、列車の旅、宿泊、孫に会う誕生日会、買い物

##### 晩秋

団体旅行引率の下見景色、美術館巡り、買い物社員旅行、里帰り、スタンプラリー、つり、ドローン撮影、写真撮影、景色を楽しむ、親類の所に行く、お墓参り、釣り、仕事(写真)、研鑽、福祉施設の見学旅行、道の駅巡り、帰省、スタンプラリー、遊びに来た、岩内の手作り市、JRレスリングの大会、少年団、墓参り、友人のガイド、バスツアー/紅葉、社内旅行、サイクリング、紅葉、ツアー、法事、スタンプラリー、観楓、宿泊、野菜、特産品、バスツアー、紅葉狩り、レジャー、スキー、暇つぶし、美術館巡り観光、保養、親戚、仕事、ピンズ、友人宅訪問、美術館、知り合いに会いに



## 文 献

- 1) 堀じゅん子・山下成治・島名毅：「グリーン・ツーリズム「農たび・北海道」の広報におけるデザインと社会連携の試み」, 札幌大谷大学紀要, 49号, pp. 1-13 (2019).
- 2) 海津ゆりえほか：「第二世代を迎えた日本型エコツーリズムの課題と展望に関する研究」, 国立民族学博物館調査報告, 巻 51, pp. 211-227(2004).
- 3) 例えば, 田村亨・石田東生：「交通行動の調査技法の発展」, 行動計量学, 第20巻(第1号：通巻38号), pp. 4-11 (1993).
- 4) 久保田尚ら：「ミクロな道路交通状況と運転者の経験—心理を考慮した経路交通量予測手法の開発」, 平成7年度科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書, 課題番号 06650585, 76pp. (2007).

(注)直接的論証ではないが, 実際に来訪経験のない運転者を被験者とした Way-Finding 問題における視覚情報利用による認知-行動記憶の特性を扱っている。

(やました なりはる 札幌大谷大学社会学部教授)

(もり まさと 札幌大谷大学社会学部教授)

(とがし えりお 札幌大谷大学社会学部)